

枠を超えた、知の冒険

国立大学の研究所・センターは、
理学・工学、医学・生物学、人文・社会科学などをリードする
最先端研究に取り組んでいます。
最先端研究の現場での学生教育、若手研究者支援にも
熱意をもって取り組んでいます。

2024

国立大学附置研究所・センター会議
国立大学附置研究所・センター部会別一覧



国立大学附置研究所・センター会議

<http://www.shochou-kaigi.org/>



●お問い合わせ 一橋大学 経済研究所

〒186-8603 東京都国立市中2-1 TEL042-580-8312 FAX042-580-8333

Web連載インタビュー

「未踏の領野に挑む、知の開拓者たち」

<http://shochou-kaigi.org/interview/>



Message 2024年度会長挨拶

「国立大学附置研究所・センター会議」の2024年度会長を務めることになった、一橋大学経済研究所の祝迫得夫と申します。就任にあたり一言ご挨拶させていただきます。

本会議は、国立大学が法人化された平成16年度（2004年度）に「文部科学省所轄並びに国立大学附置研究所会議」を継承して発足しました。2024年4月現在、全国の36国立大学法人に設置された110の附置研究所と研究センターで構成されています。

国立大学の附置研究所及びセンターは、それぞれが日本の学術研究の様々な分野をリードすることを使命として、先進的な研究課題や多様な学際研究、長期的な視野に基づく基礎研究などに取り組んでいます。また、その多くが共同利用・共同研究拠点として、国内外の研究者コミュニティに開かれた研究支援体制を整備し、研究の基盤ならびに共同研究の機会を提供することによって、個々の大学の枠を超えてわが国の学術研究を支えています。2023年度はコロナ禍の本格的な終焉を受けて、学術研究における国境を越えた人の行き来が八割方コロナ禍前の水準に戻った一方、非常手段であったオンラインのコンファレンスや研究会合はそのまま残り、アフターコロナの新しい学術研究の「日常」が形作られつつあります。国内外の研究者ネットワークの中心拠点としての役割を果たし、また学生や若手研究者が先端研究の場に直に触れるための場を提供し、次世代研究者の育成をするという附置研究所・センターの役割に何ら変わりはありませんが、新しい社会経済環境のもとで、その遂行・推進においては様々な新しいチャレンジに直面しています。

本会議はこれまで、わが国の学術研究の発展に資する重要な提言や要望を発信し続けてきました。同時に、先進的な学術研究活動の成果の社会一般への情報発信強化のために、各研究所・センターのユニークな研究活動のウェブサイト等を通じた紹介や、公開シンポジウムの開催などにも力を入れています。今後もさらに「研究活動の見える化」を推進することにより、附置研究所・センターが担っているそれぞれの学問分野における研究の動向を、広く皆様を知っていただきたいと考えています。

我々は、附置研究所・センターが我が国の学術研究の中核としての役割を担っていることを強く認識し、引き続きその発展に貢献したいと思います。皆様の一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2024年度会長
一橋大学
経済研究所

祝迫 得夫 所長

第一部会の活動

Science and Technology

1

①電子光で探る極微な世界の探求

センター保有の大強度電子線形加速器、1.3 GeV電子シンクロトロンからの電子ビーム及びそれから生成する光子、陽電子（電子光ビーム）を駆使し、原子核物理、放射化学、生物学などの基礎研究から、工学、農学、薬学、医学分野への応用に至る幅広い研究分野にまたがる共同利用・共同研究を推進しています。また、新しい粒子状態であるダイバリオンの研究、陽子電荷半径の精密測定、テラヘルツ光源の開発などユニークな研究を展開しています。（東北大学 先端量子ビーム科学研究センター）

②ナノシート酸化物半導体トランジスタの開発

酸化物半導体は、フラットパネルディスプレイ用に量産されています。さらに半導体の集積化技術にも応用するため、原子層堆積法により酸化物半導体のナノ薄膜を成膜する技術を開発し、ナノシートトランジスタを実現しました。半導体のさらなる高集積化と高機能化が可能になり、ビッグデータを利活用する社会サービスの展開が期待されます。（東京大学 生産技術研究所）

③超音波による非接触液滴操作技術

超音波音場の精密な制御により、液滴材料の取り出しから搬送、混合、評価、分注までの全工程を完全非接触で行うシステムを構築すると同時に、関連した音場測定技法を開発しました。（東京工業大学 科学技術創成研究院未来産業技術研究所）

④温泉メタンガス発電システム

自治体及び企業との連携により、静岡県島田市の川根温泉にて温泉メタンを有効利用した分散型エネルギーシステムを社会実装した。当施設は年間75万 kWhの発電、70万 kWhの熱供給、約1,600万円の温泉宿泊施設ランニングコスト削減、約5,000トンのCO2排出削減に貢献している。

また、災害時の電熱供給も可能である。
（静岡大学 グリーン科学技術研究所）

⑤水素と水と地球の中性子材料科学

地球は水の惑星といわれます。水の大部分は海水とされますが、あまり表に出ない役である鉱物のことも考える必要があります。実験室の高温高圧のもとで地球内部の多様な鉱物（画像参照）をつくり、それらを中性子などの量子ビームを組合せて調べた結果、海よりも多くの水素が、鉱物の中に固く結びついて含まれることがわかりました。水の大部分は地下の非常に深くに隠れていました。（京都大学 複合原子力科学研究所）

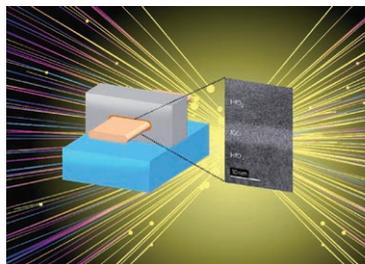
⑥マルチ機能を持つ革新的Mg合金の開発

Mgが本来有する軽量性に加え、複数の高い機能（高熱伝導性・不燃性・高強度・高延性・高耐食性）を併せ持つ画期的なMg合金の開発に成功しました。さらに、開発した合金は希土類金属（レアアース）等のレアメタルを使用せず、安価な元素を主成分に構成されており経済性にも優れているため、Mg合金の普及を加速して、輸送機器のエネルギー効率向上等によるカーボンニュートラルの実現に大きく貢献できるものと期待されます。（熊本大学・富山大学 先進軽金属材料国際研究機構）

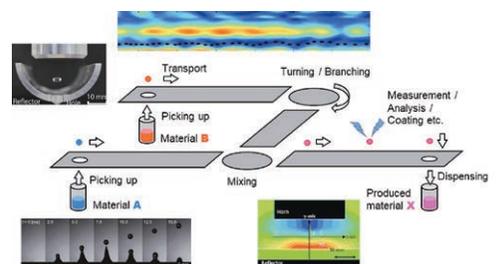
1



2



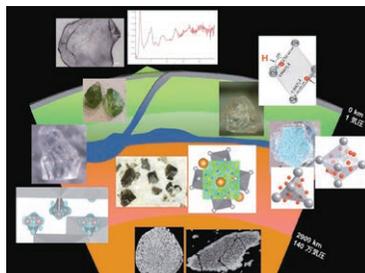
3



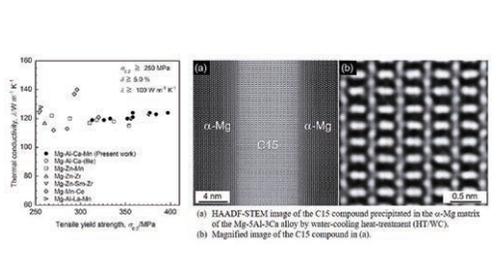
4



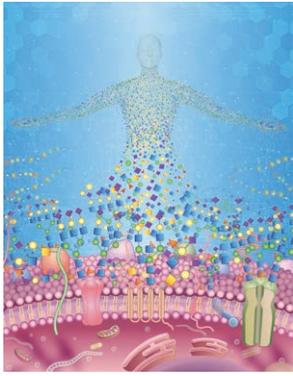
5



6



1



2



3

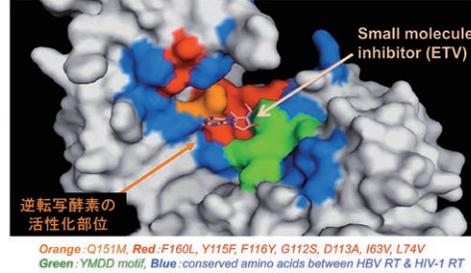
生体内における
相互作用タンパク質の
ビオチン標識



愛媛大学 PROS 独自開発酵素

4

HIV構造解析のHBV阻害剤開発研究への応用



①糖鎖で生命の本質を読み解く

私たちの体には生命の機能を担う3つの生命鎖があります。核酸、タンパク質、そして「糖鎖」です。糖鎖はほかの生命鎖に比べ、その複雑性からこれまで情報量がかなり少ないものでした。我々は、化学、生物学、医学、情報科学など多分野融合研究で糖鎖の情報を読み解き、生命原理の理解に取り組んでいます。
(名古屋大学・岐阜大学 糖鎖生命コア研究所)

②ニホンザルらしい下顎骨が成長する仕組みを明らかにしました

ニホンザルの下顎骨の成長パターンを近縁種であるカニクイザルのものと比較して、ニホンザルらしい下顎のかたちが成長する仕組みを明らかにしました。ニホンザルは硬い食べ物も食べられるよう頑丈な下顎骨をもっていますが、その成体の頑丈な形状は、それが必要となる離乳期にさしかかる頃までの間に、サル類一般にみられる成長パターンとは別の成長の仕組みがはたらいて形成されることを見出しました。
(京都大学 ヒト行動進化研究センター)

③タンパク質相互作用解析酵素の創製

近接のタンパク質をビオチン標識できる近位依存性ビオチン標識酵素 (AirIDと命名) を創製することに成功しました。AirIDを解析対象タンパク質に融合することにより、細胞内や生体内において、刺激や感染応答により変化する相互作用タンパク質を高感度かつ特異的に解析することができます。
(愛媛大学 プロテオサイエンスセンター)

④ウイルス感染症の克服を目指して

慢性ウイルス感染症を起こすHTLV-1、HIV-1、HBV、および新興ウイルスである新型コロナウイルス感染症を中心に、検査法・治療法・予防法を開発して世界の人々の健康に貢献します。特にウイルスを減少させるだけでなく根絶する治療法の確立を目指しています。また、次のパンデミックを見据えて次世代若手ウイルス研究者を育成しています。
(熊本大学・鹿児島大学
ヒトレトロウイルス学共同研究センター)

第三部会の活動

Humanities and
Social Science

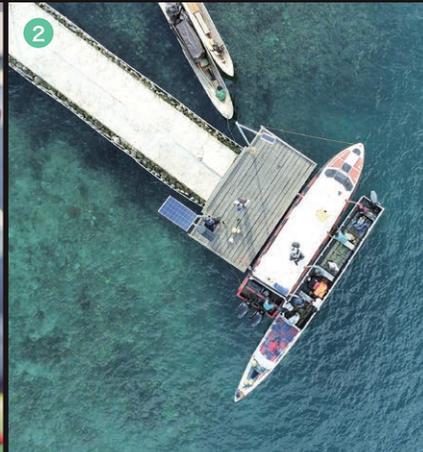
3

①パンデミック下の芸能を考える

COVID-19の芸能への影響を研究しています。古典から現代的なものまで、多くの音楽・踊り・演劇の上演がパンデミック下で不要不急とされました。伝承体制の脆弱性や芸能者の周縁性が際立った一方で、新たな表現や上演形式を探索する創造性や、芸能を守ろうとする人々の奮闘が際立つ局面もありました。翻弄され揺れ動く芸能の姿は、我々に芸能という営みの新たな側面を見せてくれます。
(東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所)

②海域アジア危機遺産のデジタルアーカイブ構築

海域アジア遺産調査 (MAHS) はベトナム、インドネシア、タイ、モルディブ沿岸地域で散逸・滅失の危機に瀕する歴史文化遺産を体系的に調査し、遺産情報の永続的保存、オープンアクセスのデジタルアーカイブ構築をめざします。京都ラボと現地チームとの緊密な連携のもと最新技術を用いて行う調査は人文情報学における革新的アプローチとして、より広い研究領域の発展に貢献する可能性もっています。
(京都大学 東南アジア地域研究所)



第二部会の活動 Medical and Biology

2

1

理工学系 第1部会の研究所・研究センター Science and Technology

第1部会シンポジウム

令和6年9月3日(火)

担当:北海道大学 北極域研究センター

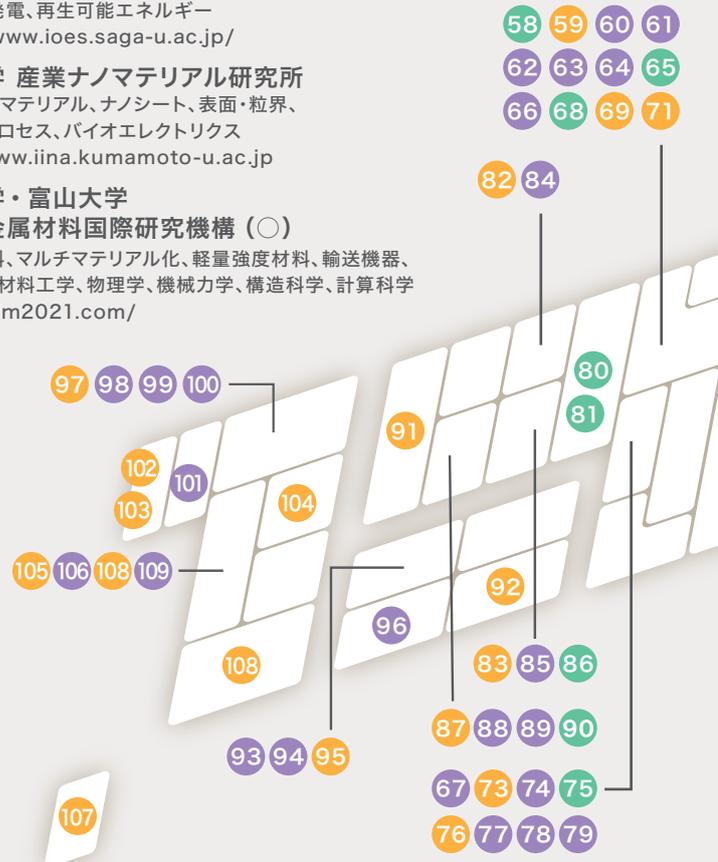


2024年度 第1部会長
東京大学 地震研究所長
古村 孝志

- 1 北海道大学 低温科学研究所 (○)
低温、寒冷圏、水・物質循環、雪氷、宇宙物質、生物環境、環オホーツク
<https://www2.lowtem.hokudai.ac.jp/>
- 2 北海道大学 電子科学研究所 (○)
複合領域ナノサイエンス、物質科学、光科学、生命科学、数学・数理論理学
<https://www.es.hokudai.ac.jp/>
- 4 北海道大学 触媒科学研究所 (○)
触媒、表面化学、電極表面、光触媒、炭素資源変換、有機材料、高分子、触媒理論化学、実用化基盤技術開発
<http://www.cat.hokudai.ac.jp/>
- 7 北海道大学 北極域研究センター
北極域、大気圏・水圏、陸圏、雪氷圏、環境工学、人文社会科学、衛星観測・モデリング
<https://www.arc.hokudai.ac.jp/>
- 10 東北大学 金属材料研究所 (※)
材料物性、材料設計、物質創製、材料プロセス・評価、エネルギー材料、社会基盤材料、エレクトロニクス材料
<http://www.imr.tohoku.ac.jp/>
- 12 東北大学 流体科学研究所 (○)
流体、流動、統合流動科学、環境・エネルギー、ナノ・マイクロ、健康・福祉・医療、宇宙航空、融合研究
<https://www.ifs.tohoku.ac.jp/>
- 13 東北大学 電気通信研究所 (○)
計算システム基盤、情報通信基盤、人間・生体情報システム、ナノエレクトロニクス・スピントロニクス、ブレインウェア、サイバー・リアル空間
<https://www.riec.tohoku.ac.jp/>
- 14 東北大学 多元物質科学研究所 (○)
多元物質科学、有機・無機ハイブリッド材料、プロセスシステム・デバイス工学、先端計測技術開発、ソフトマテリアル、ネットワーク型共同研究拠点
<https://www2.tagen.tohoku.ac.jp>
- 15 東北大学 災害科学国際研究所
東日本大震災、災害科学、復興、学際的研究、実践、仙台防災枠組 2015-2030、防災コミュニケーション、被災者
<https://irides.tohoku.ac.jp/>
- 17 東北大学 先端量子ビーム科学研究センター (○)
1.3 GeV 高エネルギー電子シンクロトロン、60 MeV 大強度電子直線加速器、電子光ビーム、ハドロン物理、原子核物理、放射化学、ビーム物理
<https://www.lns.tohoku.ac.jp/>
- 18 東北大学 国際放射光イノベーション・スマート研究センター
放射光科学、次世代計測科学、材料科学、物質組成構造解析、ナノサイエンス、量子ビーム
<https://www.sris.tohoku.ac.jp/>
- 19 筑波大学 計算科学研究センター (○)
学際計算科学、計算機科学、スーパーコンピュータ
<https://www.ccs.tsukuba.ac.jp/>
- 21 筑波大学 放射線・アイソトープ地球システム研究センター (○)
福島第一原子力発電所事故、放射能、アイソトープ、核関連施設、環境、水循環
<http://www.ied.tsukuba.ac.jp/>
- 25 千葉大学 環境リモートセンシング研究センター (○)
リモートセンシング、地理情報、大気環境、陸域環境、気候変動、モデル統合
<https://ceres.chiba-u.jp/>
- 27 東京大学 地震研究所 (○)
地震、火山噴火、津波、地球内部構造、計算地球科学、自然災害、観測固体地球科学
<https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/>
- 30 東京大学 生産技術研究所
工学全般(基礎系、機械・生体系、情報・エレクトロニクス系、物質・環境系、人間・社会系)、産学連携、国際連携、地域連携
<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/>
- 33 東京大学 宇宙線研究所 (※)
宇宙線、ニュートリノ、重力波
<https://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/>
- 34 東京大学 物性研究所 (○)
物性科学、物性理論、量子物質、機能物性、ナノサイエンス、量子ビーム、強磁場、光科学、計算物質科学
<https://www.issp.u-tokyo.ac.jp/>
- 36 東京大学 先端科学技術研究センター
材料、情報、環境・エネルギー、生物医化学、バリアフリー、社会科学
<https://www.rcast.u-tokyo.ac.jp/>
- 37 東京大学 素粒子物理国際研究センター (○)
素粒子物理、CERN LHC-ATLAS実験、PSI MEG実験、国際リニアコライダーILC、陽子・陽子衝突、ヒッグス粒子、超対称性理論、統一理論、量子AIテクノロジー
<https://www.icepp.s.u-tokyo.ac.jp/>
- 38 東京大学 空間情報科学研究センター (○)
GIS、時空間解析、時空間センシング、空間データ基盤
<http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/>
- 39 東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 (○)
バイオマテリアル、医療デバイス・システム、生体機能分子、生体医歯工学
<https://www.tmd.ac.jp/ibb/>
- 42 東京工業大学 科学技術創成研究院 化学生命科学研究所 (○)
ケミカルバイオロジー、超分子化学、機能性高分子、錯体化学、計算化学、 π 電子系分子、サブナノ粒子、水素・燃料電池材料、DDS、代謝制御
<http://www.res.titech.ac.jp/index.html>
- 43 東京工業大学 科学技術創成研究院 未来産業技術研究所 (○)
知能化学、情報イノベーション、電子機能システム、量子ナノエレクトロニクス、フォトニクス集積システム、マイクロフルイディクス、ものづくり基盤技術・社会実装、先端材料、異種機能集積、応用AI、生体医歯工学、知的材料デバイス
<https://www.first.iir.titech.ac.jp/index.html>
- 44 東京工業大学 科学技術創成研究院 フロンティア材料研究所 (○)
セラミックス、機能性酸化物、先端材料、建築構造・材料、耐震・制振
<https://www.msl.titech.ac.jp/index.html>
- 45 東京工業大学 科学技術創成研究院 ゼロカーボンエネルギー研究所
カーボンニュートラル、グリーン・トランスフォーメーション、再生可能エネルギー、原子力エネルギー、炭素循環、物質循環、エネルギー貯蔵、新型炉、原子力材料・応用
<http://www.zc.iir.titech.ac.jp/>
- 48 新潟大学 災害・復興科学研究所
自然災害科学、豪雪、極端気象、地震、噴火、土砂・洪水災害、複合連動災害、減災対策、復興、危機管理
<https://www.nhdr.niigata-u.ac.jp/>
- 51 金沢大学 環日本海域環境研究センター (○)
越境汚染、国際共同研究拠点、統合環境研究、有害化学物質、大気観測スーパーサイト、低レベル放射能計測
<http://www.ki-net.kanazawa-u.ac.jp/>
- 52 信州大学 先鋭領域融合研究群 繊維科学研究所
機能高分子創出、天然繊維材料、新規繊維材料・応用研究、繊維生産技術、スマートテキスタイル
<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/ifes/>
- 53 静岡大学 電子工学研究所 (○)
イメージングデバイス、ナノエレクトロニクス、ナノフォトニクス、ナノマテリアル
<https://www.rie.shizuoka.ac.jp/>
- 54 静岡大学 グリーン科学技術研究所
グリーン分子創造技術、生物分子機能、植物ストレスマネジメント、植物ゲノミクス、フィールドインフォマティクス、超分子・分子集合体、新エネルギー
<https://green.shizuoka.ac.jp/>

39・40・42～45 は、東京工業大学と東京医科歯科大学が統合し、2024年10月に東京科学大学となります。

- 56 名古屋大学 未来材料・システム研究所 (○)**
革新的省エネルギー技術、高度計測技術、次世代半導体材料・デバイス、持続可能な社会のためのシステム技術
<https://www.imass.nagoya-u.ac.jp>
- 57 名古屋大学 宇宙地球環境研究所 (○)**
太陽地球系科学、宇宙線、太陽、太陽風、電磁気圏、超高層大気、気象学、海洋学、水循環、地球表層、鉱物学、考古学、年代測定
<https://www.isee.nagoya-u.ac.jp/>
- 60 京都大学 化学研究所 (※)**
化学、元素科学、物性科学、生物・情報学、ビーム科学、および学際プラットフォーム
<https://www.kuicr.kyoto-u.ac.jp/>
- 61 京都大学 エネルギー理工学研究所 (○)**
ゼロエミッションエネルギー、プラズマ・量子エネルギー、ソフトエネルギー、核融合エネルギー利用、高効率太陽光エネルギー利用、バイオリファイナリー、カーボンネガティブエネルギー
<https://www.iae.kyoto-u.ac.jp/new-iae/>
- 62 京都大学 生存圏研究所 (○)**
生存圏科学、環境診断・循環機能制御、太陽エネルギー変換・高度利用、宇宙生存環境、循環材料・環境共生システム、高品位生存圏
<https://www.rish.kyoto-u.ac.jp/>
- 63 京都大学 防災研究所 (○)**
防災学、減災学、災害学理、自然災害科学、地震災害、火山災害、地盤災害、気象災害、水災害、総合防災
<https://www.dpri.kyoto-u.ac.jp>
- 64 京都大学 基礎物理学研究所 (○)**
素粒子論、原子核理論、物性理論、宇宙論、量子情報理論
<https://www.yukawa.kyoto-u.ac.jp/>
- 66 京都大学 数理解析研究所 (※)**
数学、数理科学
<https://www.kurims.kyoto-u.ac.jp/ja/>
- 67 京都大学 複合原子力科学研究所 (○)**
研究用原子炉、加速器、原子力工学、粒子線・放射性同位元素、放射線生命、複合原子力科学
<https://www.rrri.kyoto-u.ac.jp/>
- 74 大阪大学 産業科学研究所 (○)**
情報科学、量子科学、材料科学、ビーム科学、生体科学、分子科学、ナノテクノロジー、AI
<https://www.sanken.osaka-u.ac.jp/>
- 77 大阪大学 接合科学研究所 (○)**
接合科学、分離科学、積層造形技術、ものづくり基盤技術
<https://www.jwri.osaka-u.ac.jp>
- 78 大阪大学 レーザー科学研究所 (○)**
レーザー科学、プラズマ科学、高エネルギー密度科学、レーザー核融合科学
<https://www.ile.osaka-u.ac.jp/ja/index.html>
- 79 大阪大学 核物理研究センター (※)**
原子核物理学、ハドロン物理学、加速器物理学、計算物理学
<https://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/>
- 84 岡山大学 惑星物質研究所 (○)**
地球惑星物質科学、惑星深部ダイナミクス、高温高压実験、鉱物・マグマ物性、主要・微量元素分析、同位体分析、年代測定、アストロバイオロジー、リモートセンシング
<https://www.misasa.okayama-u.ac.jp/>
- 85 岡山大学 異分野基礎科学研究所**
数理科学、量子宇宙、光合成、進化、構造生物学、錯体化学、超伝導、有機エレクトロニクス材料、理論化学
<http://www.riis.okayama-u.ac.jp/>
- 88 広島大学 半導体産業技術研究所 (○)**
ナノデバイス、半導体生産方式、集積回路、バイオ融合、ビックデータサイエンス
<https://www.rnbs.hiroshima-u.ac.jp/>
- 89 広島大学 放射光科学研究所 (○)**
放射光、超伝導、スピン、物性・生命異分野融合、高輝度小型放射光源、人材育成
<http://www.hsrb.hiroshima-u.ac.jp/>
- 93 愛媛大学 地球深部ダイナミクス研究センター (○)**
超高压実験、第一原理計算、地球ダイナミクス、鉱物物性、相転移、地球深部、マントル、核、レオロジー、地球深部水、スーパーアース、惑星科学、ダイヤモンド、新物質合成
<https://www.grc.ehime-u.ac.jp/>
- 94 愛媛大学 沿岸環境科学研究センター (○)**
生物環境試料バンク、内分泌かく乱化学物質、生態影響、環境毒性学、ワンヘルス、東南アジア、沿岸海洋、低次生態系
<http://www.cmes.ehime-u.ac.jp/>
- 96 高知大学 海洋コア国際研究所 (○)**
地球掘削科学、古海洋学、層序学、地球化学、古地磁気学
<http://www.kochi-u.ac.jp/marine-core/index.html>
- 98 九州大学 応用力学研究所 (○)**
応用力学、核融合力学、新エネルギー力学、地球環境力学
<https://www.riam.kyushu-u.ac.jp/>
- 99 九州大学 先導物質化学研究所 (○)**
物質化学、ソフトマテリアル、機能材料、炭素材料、先端素子材料、エネルギーデバイス
<http://www.cm.kyushu-u.ac.jp/>
- 100 九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 (○)**
産業数学、数学、数理科学、統計学
<https://www.imi.kyushu-u.ac.jp/>
- 101 佐賀大学 海洋エネルギー研究所 (○)**
海洋エネルギー、海洋温度差発電、波力発電、潮流発電、洋上風力発電、再生可能エネルギー
<https://www.ioes.saga-u.ac.jp/>
- 106 熊本大学 産業ナノマテリアル研究所**
二次元ナノマテリアル、ナノシート、表面・粒界、AI、爆発プロセス、バイオエレクトロニクス
<http://www.iina.kumamoto-u.ac.jp>
- 109 熊本大学・富山大学 先進軽金属材料国際研究機構 (○)**
軽金属材料、マルチマテリアル化、軽量強度材料、輸送機器、生体材料、材料工学、物理学、機械力学、構造科学、計算科学
<https://ilm2021.com/>



センター部会別一覧

Institutes and Centers of
National Universities

2

医学・生物学系
第2部会の研究所・研究センター
Medical and Biology



2024年度 第2部会長
九州大学
生体防御医学研究所長
大川 恭行

第2部会シンポジウム
令和6年11月1日(金)
担当: 東京大学 大気海洋研究所

- 3 北海道大学 遺伝子病制御研究所 (○)
感染癌、免疫学、感染症、腫瘍、炎症、基礎医学、生命科学
<https://www.igm.hokudai.ac.jp/>
- 6 北海道大学 人獣共通感染症国際共同研究所 (○)
人獣共通感染症、予防・診断・治療法の開発、
グローバルサーベイランス、アジア・アフリカ、One Health
<https://www.czc.hokudai.ac.jp/>
- 8 帯広畜産大学 原虫病研究センター (○)
原虫病、ベクター、WOAH コラボレーティングセンター、
アジア・アフリカ、獣医学
<https://www.obihiro.ac.jp/facility/protozoa/>
- 9 弘前大学 被ばく医療総合研究所 (○)
放射線(能)計測、物理線量評価、生物学的線量評価、放射線生物学、
バイオアッセイ、環境放射生態学、環境動態、分析化学、
被ばく医療体制、リスクコミュニケーション、人材育成
<http://irem.hirosaki-u.ac.jp>
- 11 東北大学 加齢医学研究所 (○)
加齢制御、腫瘍制御、脳科学、環境ストレス老化、スマート・エイジング、医療機器開発
<http://www.idac.tohoku.ac.jp/>

- 20 筑波大学 つくば機能植物イノベーション研究センター (○)
遺伝資源、遺伝子組換え植物、ゲノム編集植物、特定網室、
環境影響試験圃場、リスク分析、LMO/GMO理解増進
<https://www.t-pirc.tsukuba.ac.jp/>
- 22 筑波大学 下田臨海実験センター
海洋生物学、生物多様性、進化発生系統、海洋生態、海洋環境、海洋酸性化
<http://www.shimoda.tsukuba.ac.jp/>
- 23 群馬大学 生体調節研究所 (○)
内分泌・代謝、生活習慣病、細胞生物学、ゲノム・エピゲノム解析
<https://www.imcr.gunma-u.ac.jp/>
- 24 千葉大学 真菌医学研究センター (○)
病原真菌・放線菌、臨床感染症、免疫、病原真菌・放線菌バイオリソース
<http://www.pf.chiba-u.ac.jp>
- 26 東京大学 医科学研究所 (※)
医科学研究、感染症、がん、免疫・神経・筋疾患、加齢性疾患、
ヒトゲノム解析、疾患システム研究、再生医療、プレジジョン・メディシン、
遺伝子・細胞治療、ELSI 研究、トランスレーショナル・リサーチ、AI 医科学
<https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/>
- 32 東京大学 定量生命科学研究所
構造生物学、ゲノム科学、脳科学、免疫、感染、小分子 RNA、オープンサイエンス
<https://www.iqb.u-tokyo.ac.jp/>
- 35 東京大学 大気海洋研究所 (○)
海洋、大気、地球科学、気候変動、海洋生物資源、地球生命圏
<https://www.aori.u-tokyo.ac.jp/>
- 40 東京医科歯科大学 難治疾患研究所 (○)
難治疾患、基礎生物学、ゲノム応用医学、難治病態、先端分子医学
<https://www.tmd.ac.jp/mri/>
- 47 新潟大学 脳研究所 (○)
基礎・臨床神経学、精神神経疾患、バイオリソース、統合脳機能、神経病理学、
ヒト脳科学、システム脳病態学、進化脳病態
<https://www.bri.niigata-u.ac.jp/>
- 49 富山大学 和漢医薬学総合研究所
漢方医学、伝統医学、病態薬効解析、生薬・天然物分析、データベース
<https://www.inm.u-toyama.ac.jp>
- 50 金沢大学 がん進展制御研究所 (○)
発がん、悪性化、がんモデル、微小環境、幹細胞、分子標的
<https://ganken.cri.kanazawa-u.ac.jp/>
- 55 名古屋大学 環境医学研究所
ストレス受容・応答、生体適応・防御、脳神経系、内分泌、代謝、
ゲノム制御、新規治療・創薬
<http://www.riem.nagoya-u.ac.jp/>
- 59 京都大学 医生物学研究所 (○)
ウイルス学、生命科学、分子生物学、細胞生物学、組織再生、幹細胞、
医工学、再生医療、免疫学
<https://www.infront.kyoto-u.ac.jp/>
- 69 京都大学 iPS細胞研究所
iPS細胞、再生医療、幹細胞
<https://www.cira.kyoto-u.ac.jp>
- 70 京都大学 生態学研究センター (○)
生態系、生物多様性、生物間相互作用、琵琶湖、熱帯林
<https://www.ecology.kyoto-u.ac.jp/>
- 71 京都大学 野生動物研究センター (○)
野生動物、フィールドワーク、動物園・水族館、絶滅危惧種、保全
<http://www.wrc.kyoto-u.ac.jp/>
- 72 京都大学 ヒト行動進化研究センター
霊長類学(脳機能、認知機能、生体機構、ゲノム、モデル動物)
<https://www.ehub.kyoto-u.ac.jp/>

3

人文・社会科学系 第3部会の研究所・研究センター Humanities and Social Science

第3部会シンポジウム
令和6年10月18日(金)
担当: 京都大学 東南アジア地域研究研究所

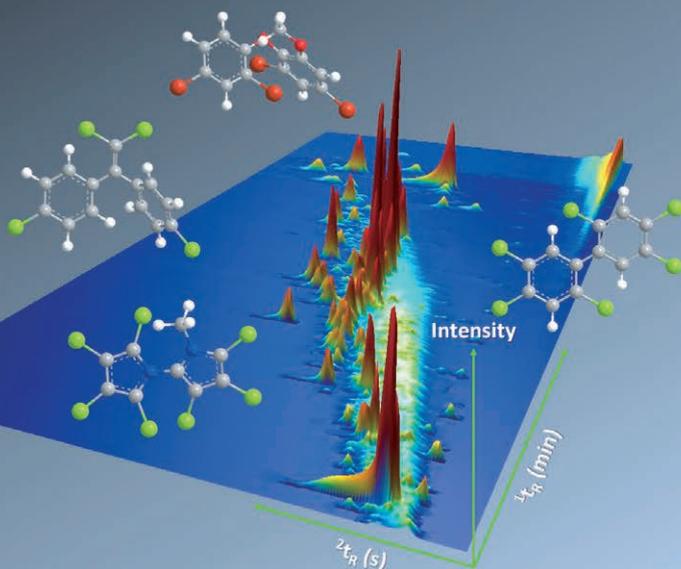


2024年度 第3部会長
京都大学
東南アジア地域研究研究所長
三重野 文晴

- 73 大阪大学 微生物病研究所 (○)
感染症、病原体、免疫、生体防御、基礎生物学、がん、海外拠点
<http://www.biken.osaka-u.ac.jp/>
- 76 大阪大学 蛋白質研究所 (○)
蛋白質科学、構造生物学、基礎生物学、蛋白質合成・デザイン、
システム生物学、蛋白質情報科学
<http://www.protein.osaka-u.ac.jp/>
- 82 鳥取大学 国際乾燥地研究教育機構 (○)
乾燥地科学、砂漠化、干ばつ、ダスト、環境修復
<https://www.ipdre.tottori-u.ac.jp/>
- 83 岡山大学 資源植物科学研究所 (○)
環境ストレス、遺伝資源、ゲノム育種、植物生理、
植物栄養、植物病理、生物間相互作用
<https://www.rib.okayama-u.ac.jp/>
- 87 広島大学 原爆放射線医科学研究所 (○)
原爆被爆者、放射線障害、被ばく医療、放射線発癌、
ゲノム損傷修復、再生医学、医療放射線被ばく
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/rbm>
- 91 山口大学 細胞デザイン医科学研究所
デザイナー細胞、ゲノム編集、医獣トランスレーショナルリサーチ
<https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~celldesign/>
- 92 徳島大学 先端酵素学研究所 (○)
医科学、先端酵素学、糖尿病、がん、免疫疾患、慢性炎症、ゲノム、
プロテオーム、ゲノム編集、創薬イノベーション
<https://www.iams.tokushima-u.ac.jp/>
- 95 愛媛大学 プロテオサイエンスセンター (○)
複合体タンパク質、インタラクトーム、タンパク質相互作用解析、無細胞タンパク質合成、
近位依存性ピオチン化酵素、薬剤スクリーニング、薬剤標的探索、感染症
<https://www.pros.ehime-u.ac.jp/>
- 97 九州大学 生体防御医学研究所 (○)
多階層生体防御システム、高深度オミクス、データ駆動型サイエンス、
構造生物学、情報生物学、システム免疫学、がん生物学、発生再生医学、アレルギー学
<http://www.bioreg.kyushu-u.ac.jp/>
- 102 長崎大学 熱帯医学研究所 (○)
熱帯医学、感染症、熱帯公衆衛生学、国際保健、
ケニア・ベトナム拠点、熱帯医学ミュージアム
<https://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/nekken/>
- 103 長崎大学 原爆後障害医療研究所 (○)
放射線影響学、被ばく医療、ゲノム学、腫瘍学
<https://www.genken.nagasaki-u.ac.jp/index-sjjs.html>
- 104 大分大学 グローカル感染症研究センター
感染症、消化器感染症、ピロリ菌、人獣共通感染症、One Health
<https://www.oita-glocal.jp/>
- 105 熊本大学 発生医学研究所 (○)
発生制御、幹細胞、器官構築、臓器再建
<http://www.imeg.kumamoto-u.ac.jp/>
- 107 琉球大学 熱帯生物圏研究センター (○)
亜熱帯島嶼、サンゴ礁、マングローブ、生物多様性、共生、遺伝資源、感染症
<https://tbc.skr.u-ryukyu.ac.jp/>
- 108 熊本大学・鹿児島大学
ヒトレトロウイルス学共同研究センター
ウイルス学、感染症、HIV-1/AIDS、HTLV-1/ATL/HAM、SARS-CoV-2/COVID-19、
HBV/Hepatitis B、抗ウイルス薬、ワクチン開発、中和抗体、細胞性免疫、感染動物モデル
<https://jrcrvi.jp/>
- 110 名古屋大学・岐阜大学 糖鎖生命コア研究所 (○)
糖鎖、グライコミクス、グライコプロテオミクス、第三の生命鎖、
拡張セントラルドグマ、生命科学、糖鎖情報、ヒューマングライコームプロジェクト
<https://igcore.thers.ac.jp/>
- 5 北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター (○)
スラブ・ユーラシア地域研究、ロシア、シベリア・極東、
中央ユーラシア、東欧、地域比較、境界研究
<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/index.html>
- 16 東北大学 東北アジア研究センター
東北アジア地域研究、文理連携、自然史、歴史文化、国際関係、
環境資源、応用・社会連携
<http://www.cneas.tohoku.ac.jp/>
- 28 東京大学 東洋文化研究所
東洋文化、アジア研究のアジア化と普遍化、Global Asian Studies
<https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/>
- 29 東京大学 社会科学研究所
社会科学の総合知、現代日本社会研究、
全所的プロジェクト研究、社会調査・データアーカイブ、
Social Science Japan Journal、地域力創発デザイン
日本語: <https://jwww.iss.u-tokyo.ac.jp/>
英語: <https://www.iss.u-tokyo.ac.jp/>
- 31 東京大学 史料編纂所 (○)
歴史学、日本史、歴史情報学、文献研究、文化財、史料学
<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>
- 41 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 (○)
少数言語の記録・保存、中東・イスラーム圏、文化人類学、情報資源利用研究、
フィールドサイエンス
<http://www.aa.tufts.ac.jp/>
- 46 一橋大学 経済研究所 (○)
経済制度、公的統計マイクロデータ、高度実証分析拠点、
世代間問題、長期経済統計
<https://www.ier.hit-u.ac.jp/>
- 58 京都大学 人文科学研究所 (○)
人文学、人類学、社会学、情報学、科学史、
中国学、東洋学、現代中国研究
<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/>
- 65 京都大学 経済研究所 (○)
複雑系経済学、経済変動、ゲーム理論、組織と戦略
<https://www.kier.kyoto-u.ac.jp>
- 68 京都大学 東南アジア地域研究研究所 (○)
持続型生存基盤研究、文理融合アプローチ、フィールド・サイエンス、
相關型地域研究、地域情報学
<https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp>
- 75 大阪大学 社会経済研究所 (○)
行動経済学、経済実験、経済政策、制度設計
<https://www.iser.osaka-u.ac.jp/>
- 80 神戸大学 経済経営研究所
グローバル経済、企業競争力、企業情報、グローバル金融
<https://www.rieb.kobe-u.ac.jp/>
- 81 神戸大学 計算社会科学研究所
計算社会科学
<http://ccss.kobe-u.ac.jp/>
- 86 岡山大学 文明動態学研究所
人類の誕生と文明の形成、社会の複雑化と地域社会の形成、
日本社会の縮図としての瀬戸内
<https://ridc.okayama-u.ac.jp/>
- 90 広島大学 高等教育研究開発センター
高等教育研究、大学改革、大学のガバナンス、
高等教育政策、大学教授・専門職、IR 方法論、研究倫理
<https://rihe.hiroshima-u.ac.jp/>

es-BANK

Environmental Specimen Bank for Global Monitoring



表紙: 太陽活動に伴う太陽風の変動

独自の大型電波望遠鏡群を開発し、惑星間空間シンチレーション現象の地上電波観測から太陽風の変動を40年以上にわたって導出してきました。これにより太陽活動に伴う太陽風のグローバルな変動を明らかにしました。また、太陽風擾乱の地球への到来予測を実現することで、宇宙天気予報の精度向上にも貢献しています。

(名古屋大学 宇宙地球環境研究所)

裏表紙: es-BANKを活用したノンターゲット分析

生物環境試料バンク(es-BANK)の保存試料を活用したノンターゲット分析から、新規の環境汚染物質を検出することに成功しました。主にアジア地域をフィールドにして、新規汚染物質の環境動態に関する国際共同研究を展開しています。また、多様な野生動物の細胞や遺伝子を用いて、毒性影響・リスク評価に関する研究にも取り組んでいます。

(愛媛大学 沿岸環境科学研究センター)

「国立大学附置研究所・センター会議」は、
全国の国立大学の研究所・センターの所長・センター長が協力して
日本の学術研究を発展させることを目的とした組織です。

組織紹介

36の国立大学の110の研究所・研究センターで構成されています。

所属教員数は3,600名を超えます。

理工系中心の第1部会(57研究所・センター)、医学・生物系中心の第2部会(38研究所・センター)、人文・社会系中心の第3部会(15研究所・センター)からなります。

主な活動

- 各研究所・センター間の学術交流と情報交換
- 文部科学省との情報交換
- 学術研究政策に対する問題提起や提言
- 研究所・センターが行っている研究の広報
- 最先端研究を紹介するためのシンポジウムの開催